

おっとりスズメのおやすみ処

N (ナレーション)

スズメ

コウノトリ

ツバメ

ガチョウ

王子

N 日に日に寒さが増してきた秋の昼下がりに。

スズメちゃんがゆったりとお茶の準備をしているところへ、広げれば2メートルにもなる大きな翼のコウノトリのおばさんが舞い降りてきた。

コウノトリ あら？ ちょっとスズメちゃん？ いないのー？

スズメ ここよ、コウノトリのおばさん。

コウノトリ やだ、ちっちゃくてわかんなかった。あやうく踏んづけちゃうところだったじゃないさ。

スズメ ちようどお米のミルクが入ったところなの。おばさんもいかが？

コウノトリ ありがと。でもあだし、ザリガニとかカエルとか、動物性たんぱく質じゃないと受け付けないから。

スズメ 力仕事だもんねえ。今日はどこまで赤ちゃんを届けに行ったの？

N 地元密着型のスズメちゃんは、知らない土地の話聞くのが好きだった。

さまざまな鳥たちが、羽を休めるついでに語ってくれる土産話を、いつも楽しみに待っていた。

コウノトリ それがさ、今回まさかの双子だったのよー、まあ重いなんの！ もうくちばしガクガクいっちゃって。

スズメ へ〜大変だ。で、そこはどんなところだった？

コウノトリ あそこに届けるのこれで4回目！ おんぼろで鳥小屋みたいな家に子ども5人だよ？「貧乏人の子だくさん」てほんとなんだね。

N スズメちゃんが聞きたかったのは、お届け先の経済状況などではもちろんなかった。水の向け方が悪かったのかもしれない。そう考えたスズメちゃんは、アプローチの仕方を変えてみた。

スズメ ……でも、お仕事でいろんなところに行けていいねえ。

コウノトリ そろそろ引退しようと思ってるのよ。もう体力の限界だわ。人間の赤ん坊って3千グラムもあんだよ？ スズメちゃん、あんたの目方どれくらい？

スズメ え〜。25グラムくらいかなあ。最近ちよつと太っちゃって。

コウノトリ てことは、赤んぼ一人でちよつと太ったスズメちゃん120羽分！ 今日

の双子なんて単純計算でちよつと太ったスズメちゃん240羽分！

スズメ ……おばさんは暗算が早いねえ……。

N 新たな誘い水も本流には流れなかった。聞き上手と評判のスズメちゃんは、こうして愚痴を聞かされることも少なくなかった。

コウノトリ ねえ、このへんで隠居暮らしによさそうな場所どつか知らない？ なるべく見晴らしのいい高いところがいいんだけど。

N 時にはこのように不動産の相談まで持ち込まれた。

スズメ ちよつと思ひ当たらないけど、気にしておく。

コウノトリ 頼んだよ？ 楽しみに待ってるから。じゃあね！

N いっしか楽しみに待つ側から待たれる側へ。最終的には立場まで逆転されたスズメちゃんがコウノトリのおばさんを見送っていると、ツバメさんが通りかかった。

スズメ ツバメさーん！ もうすぐ南に出発だねえ。

ツバメ ああ、スズメちゃん！ あたしね、南には渡らないことにしたの。

スズメ なんでえ！ 冬が来ちゃうよ？ ツバメさん、寒いダメでしょう？

ツバメ そうなんだけどお、最近は温室効果ガスの影響とかで地球なんか化も進んであったかいって言うしい。

スズメ 「温室効果ガス」は言えるのに「温暖化」が出てこないの？

ツバメ それに、「がんばります！」ってもう言っちゃった☆

スズメ 言っちゃったって誰に？

ツバメ やだあ！ スズメちゃんてば！

N そう言うとツバメさんは上空に舞い上がり、無駄にツバメ返しを繰り返した。

スズメ ツバメさーん！ 降りてきてー！ いろんな意味で舞い上がってるみたいだけど、ちよつと落ち着いてー！

N そこへ、やかまし屋のガチョウのおばあさんがおしりをふりふりやってきた。

ガチョウ なんかもめ事かい？ あたしが文句言ってやろうか。

スズメ 文句は間に合ってるんだけど、ツバメさんが旅に出ないって……。

ガチョウ ハッ！ 結構なこった。あたしや前から渡り鳥のヤツらに言ってやろう
と思ってたんだ。暑いだの寒いだの贅沢ぬかしていつまでもフラフラしてんじや
ないよ！ってね。

スズメ えー、いろんなところで思い出を作るのは素敵なことよー？

N 渡り鳥たちが旅をするのには、もつとちゃんとした理由があるはずだ。

しかし当のツバメさんは、旅に出ない彼女たちのこのような無理解を特に気にし
ていなかった。というか、そもそも聞いていなかった。

ツバメ 実はね、とつても大事なお役目を任せられちゃったの。なんとあの王子様か
ら！

スズメ どの？

ツバメ やあねえ！ この辺で王子様って言ったら、丘の上のあのお方に決まっ
てるじゃない！

ガチョウ ああ、あの金ぴか野郎か。

ツバメ ちよつと！ 幸福な王子様をつかまえて「野郎」とはなによ！「野郎」と
は！

スズメ 「金ぴか」の方はいいわけね？

N 丘の上には、「幸福な王子」と呼ばれる大きな銅像が立っていた。

全身に金箔がほどこされ、頭には立派な冠、腰にはルビーをあしらった剣、そし
て両方の目には、サファイアが埋め込まれていたのだが……。

ツバメ 王子様は優しいから、そのサファイアを貧しい人たちにあげちゃったんだ
って。つまり、両目を失っちゃったの。「ああ、もう一度、人々の暮らしぶりを
見ることができたらなあ」ってつぶやいてる横顔が、すつごくさびしそうでハンサ
ムだった。だからあたし、こう言ったの。「私を王子様のお目目の代わりにお使わ
れになってください！」って。

スズメ ……おばあさん。どう思う？

ガチョウ とりあえず敬語が間違ってるね！

ツバメ そういうことで、王子様お抱えの調査員は南に渡ってる暇なんてないの。
いけない、こうしちゃいられないわ。早速街の様子を報告にいかなくっちゃ！ あ、

ちなみに、あたしのコードネームは「ダブルサファイア」。かっこいいでしょ。ヨロシクね☆

N ツバメさんはそう言ってウインクを一発決めると、ピューイと丘の上に向かって飛んで行った。

スズメ ……ダブル、サファイア……？

ガチョウ 金ぴかに目がくらんで頭がイカれちまつてるよ！

N 翌日。スズメちゃんがゆったりとお茶の準備をしていると、ツバメさんが飛び込んできた。

ツバメ スズメちゃん！ スズメちゃん！

スズメ あら、ツバメさん……じゃなくてえーつと、「ダブルサファイア」だっけ？

ツバメ 大変なのよ！ ガチョウのおばあさんが、王子様に難癖をつけてるの！

N 二羽が急いで丘の上に飛んでいくと、ツバメさんの言ったとおり、ガチョウのおばあさんが王子様に向かってガーガー文句を言っていた。

ガチョウ だいたいあんた、街の人間たちの暮らしぶりを知ってどうしようっていうのさ！

王子 宝石はすべて手放してしまったけれど、僕にはまだ、体中を覆っている金箔が残っているだろう？ もしも困っている人がいたなら、それを恵んであげようかと……。

ガチョウ カーツ！ 気に入らないねえ！ いくら丘のてっぺんに立ってるからって、なんだい、その上からのもの言いは！

王子 ……さつきから、ガーガーいつているその声からすると……。どうやら君はアヒルさんだね？

ガチョウ アヒルの鳴き声は「クワツ クワツ」だよ！ あんた王子のくせにそんなことも知らないのかい。

王子 これは失敬。僕は目が見えないもので。

ガチョウ 鳴き声聞くのには関係ないけどね！

スズメ おばあさん、もうそのくらいにしといたら？ 文句を言うのにうってつけ

のお相手が見つかって、張りきっちゃうのはわかるけど。

ガチョウ こいつ、ガチョウとアヒルの区別もつかないんだよ？ 鳥のことなんてなんつにもわかっちゃいないんだ。ツバメっこ、あんたちゃんと言ったのかい？ もうじき南の国へ旅に出なきゃならないんだって。

スズメ あら？ 渡り鳥さんたちが旅することには反対じゃなかったっけ？

ガチョウ 賛成も反対もありやしなないよ！ あたしや文句さえ言えりゃあそれでいいんだ。

王子 南の国へ……？ そうなのかい？ ダブルサファイア。

ツバメ まあ、そうなんですけどお、でもいいんです！ 南の国へ行ったところで、

王子様ほどハンサムな方なんてどうせ見つかりっこないですから！

N 渡り鳥たちが旅をするのには、もつとちゃんとした理由があるはずだ。

王子 ……ダブルサファイア。僕のために、快く働いてくれてる君には、言いにくいことだけれど……。

ツバメ いえいえ、あたしほんとに……！

王子 コードネームに「ダブルサファイア」というのは、少し長くないだろうか。

ツバメ え……？ あー……。でしたら略して、「ダブル」ってことで！

スズメ そっちを残すんだねえ。

王子 君はツバメさんなんだろう？ だったらツバメのままでもいい。そして冬が来る前に、あたたかい南の国へお行き。

ツバメ ……でも、そうしたら王子様、こんな吹きっさらしの丘の上で、なんにも見えないまま一人ぼっちになっちゃう。「幸福な王子様」じゃなくなっちゃう……。N それまで異様に浮かれていたツバメさんが小さな声でこう言うと、王子様はやさしく微笑みかけた。

王子 ありがとう、ツバメさん。そんなふうにも思ってもらえて、僕はじゅうぶん幸福だよ。

スズメ どうしてお目のサファイアをダブルであげちゃったの？ 片いっぽうだけでも残しておいたらよかったのに。

王子 才能のある貧しい若者と、マッチ売りの少女がいてね。どちらかを選ぶこと

がどうしてもできなかったんだ。

ガチョウ 優柔不断な上に考えなしの甘ちゃんだね！ あんた、間違っても国王になつて国を治めようとしたりするんじゃないよ！

N そこへ、高い空の上からコウノトリのおばさんが姿を現した。

コウノトリ ちっちゃくてよく見えないけどー、そこにいるのスズメちゃん？

スズメ そうよ、コウノトリのおばさ〜ん。

コウノトリ ちょうどよかった。今あんたのところに行こうとしてたのよ。

N コウノトリのおばさんは、大きな翼をたたんで「どっこいしょっ！」と王子様の頭の上に留まった。

コウノトリ 昨日、お土産もつてきてたのに、うっかり渡しそこなっちゃってさ。

はいよ。

スズメ わあ、うれしい！ へえ、珍しいねえ。こんなに大きくてまん丸なドンダリなんて。

コウノトリ でしょ？ お届け先で拾ったの。二つつきりだけだね。

スズメ ……ねえ、おばさん。このドンダリ、どんなことに使ってもかまわない？

コウノトリ あんたにあげたもんなんだから、どうにでも好きにお使いよ。

スズメ だったらちよつと試しに……。

N スズメちゃんはおもむろに、王子様のぽっかり空いた目の中へ、二つのドンダリを押し込んだ。

ツバメ やだ、まさかのジャストフィット!?

スズメ 王子様、具合はいかが？

王子 ……見える……。見えるよ！ サファイアの時よりもかなり画質は悪いけど！

ガチョウ あんたの目の仕組みは一体どうなつてんだい。

王子 ああ…しばらく見ない間に、あの貧しい家族には双子が生まれていたんだねえ。

N 王子様がドンダリまなこを感動でうるませていると、頭の上の冠の中から、コウノトリのおばさんが興奮した声をあげた。

コウノトリ ちよつとスズメちゃん！ この場所、居心地最高じゃないよ！ 見晴らしはいいし、なんかゴージャスな囲いがついてるし！ 決めた！ あたし、ここに住むことにするわ。

スズメ 勝手に決めたらだめよー。そこ、王子様の縄張りだから。

N 縄張りというよりも、王子様そのものだ。

コウノトリ ね！ いいでしょ？ 大家さん！

王子 もちろん大歓迎だよ。僕はいつだって誰かの役に立ちたいと思っているんだ。大家ではなく王子だけれどね。

コウノトリ 大して違わないじゃないさ！ あ、そうそう。あの双子を届けたコウノトリ、あたしだからね？

王子 赤ん坊はコウノトリが運んでくるのかい！？

N 早くも良好な関係を築きつつある大家さんと店子たなこの様子ををしばし眺めてから、ガチョウのおばあさんはおしりをふりふり歩き出した。

ガチョウ ドングリまなこでニコニコと、頭の上にはでっかい鳥を乗っつけちゃって。ありやあ「幸福な王子」というより、「おめでたい王子」だよ。

スズメ 帰っちゃうの？ おばあさん。

ガチョウ 文句のつけようがなくなったらもう用はないからね。ツバメっこも、あんなおめでたい奴らにいつまでもかまってるないで、とつと旅に出ちまいな！

ツバメ ……はーい……。

スズメ あれ？ 元氣ない。王子様、笑ってるのに。

ツバメ それはほんとによかったけどさあ……。

ガチョウ あんたまさか、自分は手柄を立てられなかったとか、「さびしそうにしてた時の方が王子様はハンサムだった」なんて思ってるんじゃないだろうね！

ツバメ そんなこと……そんなこと思ってるないもん！

N ちよつと思っていたようだ。

スズメ 王子様を最初に笑顔にしてあげたのはツバメさんだよ？ 大手柄でしょ？ だからほら、安心していつてらっしゃーい。

ツバメ 簡単に言ってくれるけど、海を渡るのって大変なんだからね？

ガチョウ 必死に海の上を飛んでるうちに、そんないじけた考えもふっ飛んでく
とだろうよ！ ま、どうせ次のハンサムがみつきりやあコロッと忘れちまうんだ
ろうがね！

スズメ でも春に帰ってくることは忘れないでね？ そしてお土産話を聞かせてね。
ツバメ ……王子様みたいなハンサム、南の国でも見つかると思う？

スズメ 見つかるんじゃない？ 南の方が鳥の色も派手だって聞くし、人間の顔も
濃いらしいから。

ガチョウ せいぜい鶉の目鷹の目で探すんだね！

N 鳥らしいアドバイスを残して、ガチョウのおばあさんは帰っていった。

ツバメ そうか……うん、なんか楽しみになってきた！

N ツバメさんは急上昇すると、空の上から宣言した。

ツバメ 南の国でもものすごいハンサムを見つけてくるね！

スズメ 楽しみに待ってるよー。

N 早くも希望にあふれて飛んでいくツバメさんの姿を見送りながら、スズメちゃ
んはチョンチョンと小さく飛び跳ねた。

おしまい。